

第 2 回女性医師のさらなる活躍を応援する懇談会（平成 26 年 10 月 3 日）

主な意見

1. 全体

- 育児等により勤務に時間の制約がかかる期間は、一つの職場や専門にとらわれずに、地域医療や保健などニーズの高い分野で経験を積み、地域を知る機会とするなど、地域や社会から必要とされる分野でキャリアを積むという考え方もあるのではないか。
- 女性医師の活躍は国際保健や国際協力においても非常に求められており、このような分野に飛び込んでいく医師を応援し、海外から戻ってくる医師の受け皿を整備する視点も重要ではないか。
- ライフステージに応じて様々な職場や専門を経験することについて、キャリアアップやセカンドキャリアというポジティブな捉え方ができることが重要ではないか。

2. 勤務体制について

- 短時間勤務等で復職する者に対し、従来の常勤数の枠の外に加える形で雇用することで、本人も同僚も勤務しやすくなる。
- 出産、育児等による休業に対し、臨時のバイトや代替医師の募集をしても、働ける人は働いているので手は挙がってこない。

3. 診療体制について

- 専門看護師等の医療従事者を診療の中で活用していくことを検討することも重要。
- 病棟勤務について、シフト制や複数主治医制、病棟勤務を専門とするホスピタリストの導入等の成功事例を共有していくことで、復職の際の心理的なハードルも小さくなっていくのではないか。

4. 保育環境について

- 院内保育所があっても、都市部では子どもを連れて通勤することが難しく、居住している地域の保育所にも優先順位により入れることが難しい場合がある。
- 育児は子どもが小学校に入ってから続くものであり、小学校に入学した頃から非常勤を希望したり、専門医を取得しても燃え尽きてしまう医師も多い。
- 保育所の夜間の運営など、既にある資源を活用できないか。

## 5. 復職支援について

- 自宅での e-learning は、小さい子どもがいると実際に受講するのは難しく、託児所が設置された場で集中して研修を受ける方がよい。

## 6. 相談窓口等について

- 様々な場で、必要な情報提供や支援を行うための Web サイトを立ち上げて登録してもらい、お互いに繋げて広いネットワークを構築するなどして、いかに必要な情報を必要な者に届けるか、工夫していくことが重要ではないか。
- 相談窓口や再研修の受入施設など、わかりやすく提示していくことが重要ではないか。
- 離職した医師をリストとして把握しておき、定期的に声かけをしたり勉強会の案内を出したりすることで、潜在的な医師を掘り起こすことができるのではないか。

## 7. 医療機関等以外における取組について

- 専門医取得のための研修等においては、土日であっても子どもを預ける場を設ける等、出席しやすい体制を整備することが必要。
- 専門医の更新に際しては、当該専門医に必要な診療技術等を評価することを前提としつつ、育休等に応じて要件を満たす期間を延長するなどの配慮が必要ではないか。
- 先進的な取組を行う医療機関等に対する財政的な支援や社会的な価値を高める仕組みが必要ではないか。
- 学生時代に基本的な診療技術やプロフェッショナリズムを最大限修得していくことで、復職がスムーズになるのではないか。
- 医学生や医師への教育や指導した実績についても評価していくことが重要ではないか。